

## 事務局からのお知らせ

◆…これまでは男性のためだけのスポーツとされていた格闘技にも女性が参加するようになり、女性スポーツの世界はどんどん広がっています。しかし、医学的なアプローチとなると、まだまだこれからです。こんな現状ではありますが、一歩でも先に進もうと、産婦人科医などを中心にこのほど「女性スポーツ医学研究会」が発足し、昨年の11月14日、第1回の研究会が東京慈恵会医科大学で開催されました。会員には通知を差し上げましたが、当日、参加できなかった方のために、簡単に報告しましょう。

発起人を代表して慈恵医大の寺島芳輝教授の挨拶、これに続いて研究会の発足経過報告などがされた後、各テーマごとの講演がありました。

「女性のスポーツ外傷と障害」「女性とスポーツ医学」「スポーツと女性の性機能」「月経とスポーツ」に続き、妊婦のスポーツとして「妊婦水泳」「マタニティピクス」と興味深いテーマが取りあげられました。参加者は医師、体育研究者、指導者、スポーツ振興に携わる人など、多方面にわたり、皆熱心に耳を傾けていました。

「本会は、スポーツを通じて、女性

のライフ・サイクルにあわせた健康管理、並びに増進を図り、そのために必要な医学知識、栄養をはじめとする諸の生活指導などの普及、発展をめざすものとする」との目的を掲げています。このようなところから、単なる流行に終わることのない、真の意味での女性スポーツ振興が広がって行くことを期待します。「女性スポーツ医学研究会」について詳しくお知りになりたい方、入会ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

◆…本号クロスアップ・インタビューをご覧になって、初めて「マタニティピクス」という言葉を耳にされた方もいるのではないのでしょうか。妊婦があるのと同じ、跳ねたりのエアロピクスを？」と驚かれるかも知れませんがもちろん、マタニティピクスを始める前には、産婦人科医のチェックを受け、正常妊娠であると診断された人へののみOKが出ます。

田中泰博先生は「第一回女性スポーツ医学研究会」でも講演をされ、また「新しい妊婦体操」(日本文芸社刊)という著書もあります。妊娠生活におけるスポーツと栄養、実技・運動量・トレーニング効果など、実際のデータも交えながら解説したわかりやすい本です。また、「マタニティピクス at home」や出産後のた

めの「アフターピクス at home」のビデオも監修されています。

◆…前号で会員の皆様にご紹介したフィットネスクラブ「ノーチラスクラブ」の市ヶ谷店が昨年12月にオープンしました。会員の種別は一般会員、法人会員に加えて、新たに昼間会員ができました。

昼間会員は、入会金1万円、会費3万円(3カ月分)で、所属クラブの施設を午前9時半から午後4時半まで(土、日、祝日は全日)利用できます。無料体験のチケットなどについてのお問い合わせは事務局まで。

◆…昭和56年12月に産声をあげたWSF Japanも今年で7年目を迎えることになりました。1月29日(金)午後六時半から目黒のこまばエミナースで7周年記念パーティーを開催します。詳細は改めてご連絡いたします。皆さん多数ご参加下さい。

## 新会員紹介

▽関 秀(千葉県・佐倉市)

◆…私たちの組織WSF Japanは、ご存知のように会員の皆さんの会費によって運営されています。女性スポーツ振興という主旨にご賛同下さった方々の、物心両面のご支持がなくては何も生まれません。会費未納の方、至急、ご入金下さい。

WSF Japanとは…

WSF Japan(女性スポーツ財団日本支部)は、米国のWSFをお手本とし、日本の女性スポーツの発展、振興を目指し昭和56年12月に旗揚げされた非営利の団体です。会員は選手、指導者をはじめ、一般のスポーツ愛好者、研究者、スポーツビジネスにかかわる企業関係者など、男女を問わずさまざまな分野にわたっています。

運営は会員の会費を財政基盤とし、ボランティア活動によって支えられています。

入会金

個人会員…3000円

団体会員…5000円

年会費

個人会員…8000円

団体会員…15000円

WSF Japan News

第13号(季刊|冬季号)

発行 昭和63年1月

発行人 三ツ谷祥子

編集 SPORTS 21

発行所 WSF JAPAN

〒151 東京都渋谷区西原

3-36-23-202

03(467)5211